

ウエルハーネスだより



206号

理事長からの言葉

梅雨が明けました。相かわらず猛暑の日が続いています。九州や東北地方では、線状降水帯による集中豪雨が大きな被害をもたらしています。気候が大きく変わっていますね。10年後はどうなっているのでしょうか。

さて、生産年齢人口が減少し続け、その解決策を見いだせないわが国では、全産業において深刻な人材不足が経営危機に直結していきます。来年にはトラック業界や建設業界、医療機関等の働き方への猶予期間が終わるので、これらの業界での人材不足も深刻化すると思われ、他の産業へいろいろな面でしわ寄せが行くと思われます。

我々介護業界も、人の暮らしを人の手によって支えているので、この状況はより深刻な事態を生み出すことになるでしょう。支え手がいなくなることで事業経営が困難になるだけでなく、そこに介護難民が生まれ、悲惨な暮らしに耐えながら、誰からも手を差し伸べられずに、死んでいく人が増えていくのではと思います。

それは、国民の福祉の低下そのものであり、より深く広い闇が社会全体を覆っていくことになるかもしれません。そうなればもはや福祉国家という言葉は死語になってしまうかもしれません。

そうならないよう国は重い腰を上げて、介護分野で外国人材の就労しやすい対策などをとっていますが、それも焼け石に水の感があり、国内人材の枯渇の対策には程遠いものがあります。しかも円安や物価高なども影響して、外国人材は他国へ流れつつあり、少ない外国人材の取り合いという状況も生まれています。

現に当法人でも、上尾ほほえみの杜においてすでに5人のミャンマーからの特定技能実習生を雇用しており、さらに5人のミャンマーの方の入職が決定しています。地方の事業所で3年間技能実習を終えた即戦力のミャンマーの方に当法人に来ていただいています。地方の事業所の方には申し訳ないと思いつつも、当法人を選んでいただいています。いわゆるプロ野球という所のフリーエージェント制度のようなものです。

上尾市向山1-14-7
社会福祉法人 竹柿会
TEL: 048-782-0575
FAX: 048-782-0590
令和5年7月25日発行

とにかく介護人材の不足は、日ごと（月ごと・年ごとではありません）に深刻化しています。これに対して国が行っていることは、制度改正や報酬・基準改定等で人員基準をできるだけ緩和して、人が対応しなくても良い部分はテクノロジー対応にかえていくというものでしかなく、効果は極めて限定的なものではないと思います。

なぜなら、介護労働の大部分は、実際には人の手に頼らざるを得ないことに変化はないからです。そして介護ロボットが人にとって替われる部分が劇的に増えない限り、この状況は変わらないでしょう。しかしいくらテクノロジーが進化・発達しても、鉄腕アトムのような人に替わるロボットができる可能性は低いでしょう。力を掛ける動作と巧緻性の必要な動作を、絶妙な力加減でつなぐことができる人の動作にかなうロボットが生まれるとは思えません。

ならば、我々介護事業者は独自の人材マネジメントで人材不足を乗り切っていくしかないのではと考えています。処遇改善等介護業界全体の対策だけでは、どうみても地域の介護人材の必要絶対数を確保できるとは思えないからです。となると人材マネジメントに失敗した事業所は淘汰されてしまうこととなります。となると冒頭に述べたように、介護難民が生まれることとなります……。

こんなことを考えていると、暑苦しい夏の夜が、より寝苦しくなってきます。介護業界に限らず、この国はどうやって労働力を確保していけばよいのでしょうか？

6～7月の行事

特養ではお誕生日会やアイスクリーム、クリームソーダなどを召し上がっていただき、皆様に涼んでいただけるようなレクリエーションもありました。

デイサービスでは夏のお習字や香り小物の制作、七夕飾り、願い事を書いた短冊の飾りつけをおこないました。

7～8月の予定

特養では8月5日と19日にコロナワクチンの接種をおこないます。

デイサービスではマリンバ演奏会や尺八、オカリナの演奏会もおこなわれます。また、8月9日、10日にはサマーパーティーが開かれます。



特養は健康保険証、介護保険負担割合証、上尾市以外の方で介護保険負担限度額認定証。

デイサービスは介護保険負担割合証の提出をお願いいたします。

デイ夏の制作



七月七日 七夕



お庭の梅でシロップ作り



特養 お茶会・アイスレク・お誕生日会

